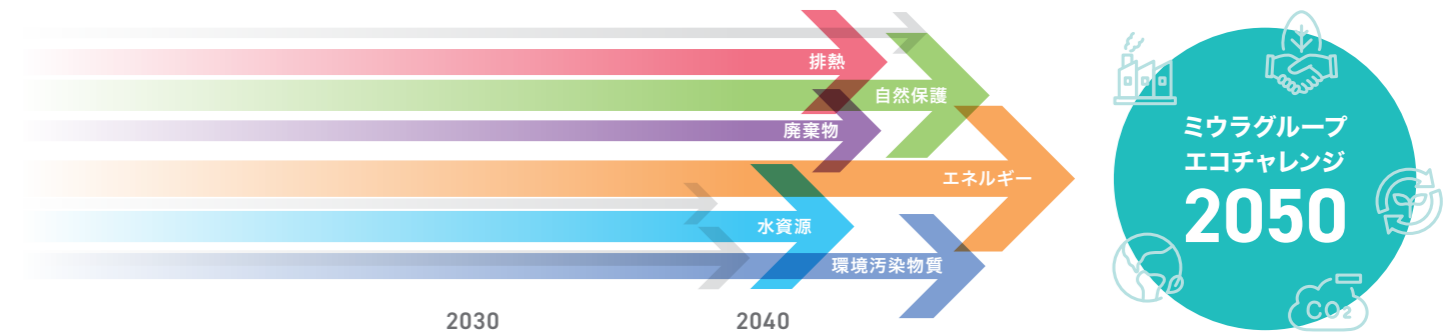


パリ協定の1.5°Cシナリオと日本政府の2030年度のGHG排出量46%削減目標（2013年度比）を鑑みて、事業活動および製品のライフサイクルにおける、GHG排出量、環境汚染物質、廃棄物、排熱、水使用量などを可能な限り最小化する「ミウラグループ エコチャレンジ」を行っています。環境長期目標では2050年までのGHG排出量（Scope 1・2・3）の削減および排出物のリサイクル率向上、水使用量の削減についての定量化目標とそれぞれの目標達成のための施策を設定し、2022年4月より取り組みを進めています。



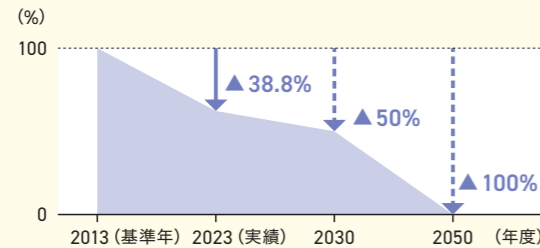
ミウラグループ エコチャレンジ 2050



脱炭素社会への取り組み

● 省エネルギー活動によるGHG排出量（Scope 1^{*1}・2^{*2}・3^{*3}）の削減
算定範囲は、三浦工業および国内グループ^{*4}

Scope 1・2 排出量

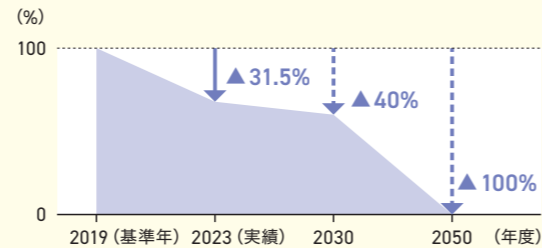


削減目標			
2013年度	2023年度 (実績)	2030年度	2050年度
基準年	▲38.8%	▲50%	▲100%

目標達成のための施策

- 溶接ロボットやコンプレッサ、射出成形機器等を省エネモデルへ更新
- 太陽光発電設備、照明のLED化、遮熱材の導入
- 空調デマンド制御によるエアコンの省エネ設定
- 上記の自助努力を実施のうえ、目標に対して実績がともなわな可能性のある場合、グリーン電力およびJ-クレジットの購入

Scope 3 排出量 (売上原単位)



削減目標 (売上原単位)			
2019年度	2023年度 (実績)	2030年度	2050年度
基準年	▲31.5%	▲40%	▲100%

目標達成のための施策

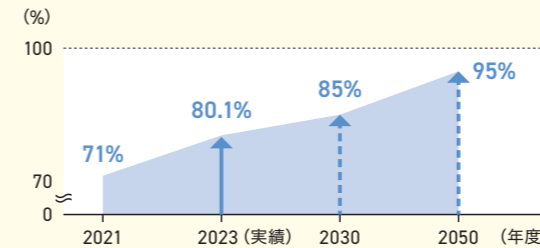
- 中長期にわたる2段階の削減戦略として、
- ① ボイラの燃料転換（油→ガス）と高効率化、廃熱回収・未利用熱回収、省エネ診断
 - ② 新燃料対応（水素、アンモニア等）およびメタネーション対応、トータルソリューション提案の推進



資源循環社会への取り組み

● 国内工場の廃棄物の削減（排出物のリサイクル率向上）
● 国内工場の水使用量の削減
算定範囲は、三浦工業（支店を除く）および国内グループ^{*4}

排出物のリサイクル率

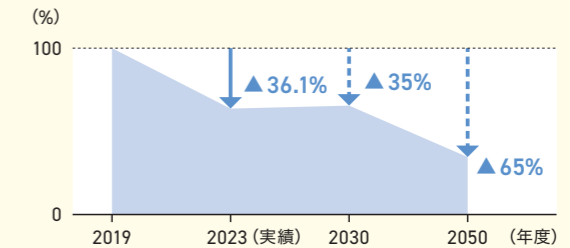


リサイクル目標			
2021年度	2023年度 (実績)	2030年度	2050年度
71%	80.1%	85%	95%

目標達成のための施策

- ごみ分別
- リサイクル率向上のためのリサイクル会社開拓
- サプライヤーからの梱包材の削減化や通い箱の活用化
- 再生しやすい素材の部材の選定
- 端材が出ない加工品の購入

水使用量 (売上原単位)



削減目標 (売上原単位)			
2019年度	2023年度 (実績)	2030年度	2050年度
基準年	▲36.1%	▲35%	▲65%

目標達成のための施策

- 自社製品を利用した試験運転水用途などへの利用
- 排水リサイクルシステムの導入
- 試験時に発生する蒸気の回収利用
- 雨水利用



自然共生社会への取り組み

● 「ミウラの森」森づくり活動を通じた自然保護と「ビオトープ」の維持



有害物質抑制社会への取り組み

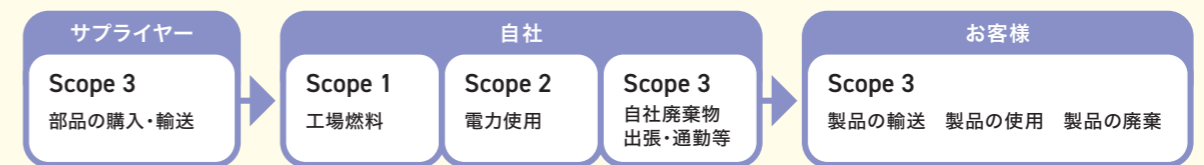
● グリーン調達による有害物質含有の低減
● 環境事故ゼロ



環境に優しい社会への取り組み

● LCA（環境影響評価）の指標および枠組みの決定と評価
● 国内・海外グループ会社の環境データの一括管理および環境活動の強化

ミウラのサプライチェーン排出量



※1 Scope 1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、温対法基準(エネルギー起源) ※2 Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用にともなう間接排出 ※3 Scope 3: Scope 1、Scope 2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出) ※4 当該ページの国内グループは、三浦マニファクチャリング、三浦アクアテック、三浦工機、三浦環境マネジメント、ミウラ・エス・エー、ミウラジョブパートナー